

## 新発見資料 「ブロンホフの家族たちとビールマン夫人」 新収蔵品展で3月19日より公開

長崎歴史文化博物館は、令和5年度に収蔵された資料「ブロンホフの家族たちとビールマン夫人」を現在開催中の「新収蔵資料展」で公開いたします。ぜひご取材・情報掲載のほど宜しくお願いいたします。

長崎歴史文化博物館では、平成17年の開館以来、設置者である長崎県及び長崎市がそれぞれの資料収集に関する基本方針のもと、収集活動を継続して行っています。



### 「ブロンホフの家族たちとビールマン夫人」

年代：文化14年(1817)～文政5年(1822) サイズ：縦53.0×横64.5cm(絹本着色、額装)

今回公開する「ブロンホフの家族たちとビールマン夫人」は、長崎県が令和6年2月に購入したもので、文化14年(1817)に出島の商館長として赴任したヤン・コック・ブロンホフとその妻ティティアたちと操舵手ビールマンの妻ヤコウバパイキを描いた群像肖像画です。

ブロンホフ家族図は国内外に複数存在しますが、本資料は、ピアノを弾くティティアの姿が、着色のうえ精巧に描かれていること、ヤコウバパイキを描いたと確実に特定できること、左上の書き入れ(\*)から制作年代が特定できることから、新発見資料として注目されます。

(\*)文化5年(1808)のフェートン号事件の際に人質となった商館員ディルク・ホーゼマンが書き入れたもので、彼の在任期間を踏まえて、この作品が文化14年(1817)～文政5年(1822)に制作されたものと絞ることができます。

## 2024年3月19日より公開する新収蔵資料

3月18日の展示替え後に、「ブロンホフの家族たちとビールマン夫人」とともに公開する主な資料



### 染付網文蓋(染付網文蓋物)

亀山焼(1807~1865)

令和5年度長崎県収集資料。  
新収蔵は、当館が既蔵している「染付網文鉢」の蓋の部分。半世紀前、別の所有者に渡り、蓋と鉢が離ればなれになっていましたが、今年度の収集でようやく本来の蓋物にもどりました。



### 崎陽湊之景

玉錦浦画 岡田半江賛  
文政9~10年(1826~27)頃

令和4年度長崎県収集資料。本資料はいわゆるシーボルト台風前の長崎港の様子(文政8~10年頃か)、とくに浦上村淵側の情報量が多いのが特徴です。



### Domestigrie(商家の使用人) ／掛取人物図

川原慶賀 文久2年(1862)

令和4年度長崎県収集資料。  
本資料は、現在、年号が確認できる慶賀作品としては最も後年の新発見資料です。



### NAGASAKI

段丘にある寺院(本蓮寺境内)  
アルベルト・ベルク(1864~73)

令和4年度長崎県収集資料。  
1861年に長崎に滞在したプロイセン東アジア遠征隊の一員で画家のアルベルト・ベルクが描いた本蓮寺(現・筑後町)。翌1862年にはシーボルト再来日し、同寺を宿所としました。

## 新収蔵品展

会 期 2024年2月21日(水)~4月21日(日) ※4月1日(月)休館

「ブロンホフの家族たちとビールマン夫人」は展示替後 3月19日(火)より公開

会 場 特集展示室(2階常設展示室内)

開 場 時 間 [3/31まで]8:30~18:00 [4/1から]8:30~19:00(最終入館いずれも30分前まで)

観 覧 料 常設展観覧料でご覧いただけます(大人630円、小中高生310円)

※県内小中学生、長崎れきぶん友の会、キャンパスメンバーズは無料

※「ブロンホフの家族たちとビールマン夫人」、新収蔵資料に関するお問い合わせは  
長崎県文化振興・世界遺産課 担当/齋藤・佐藤 (電話:095-895-2768)